



SOMPO  
ひまわり生命



## SOMPOひまわり生命保険株式会社

# FISC基準を満たす高信頼なインフラを活用し 新ワークスタイルを支えるVDIを構築

導入サービス名：Enterprise Cloud  
Arcstar Universal One



損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社  
情報システム部長  
天満 光生氏

「セキュリティと利便性という相反する課題を解決するVDIを早期に構築できたのはNTTコミュニケーションズの対応力のおかげ。ネットワークとクラウドを一体的に提供できる総合力も高く評価しています」



### 企業情報

**社名** 損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社  
**事業概要** 医療保険、がん保険、死亡保険、こども保険など幅広い保険商品を提供する。通信販売に対応するほか、ニーズに合わせて保障を選べる「新・健康のお守り」など新たな保険商品の開発・提供にも積極的に取り組む。

**URL** [www.himawari-life.co.jp](http://www.himawari-life.co.jp)

- 課題**
  - ・多くの個人情報扱う保険会社として、セキュリティの確保は必須要件
  - ・営業担当者が外出先からでも必要な情報にアクセスできる環境を整えたい
- 対策**
  - ・金融機関に求められる基準を満たすインフラを活用してVDIを構築
  - ・既存の基幹網を活かし、セキュアなリモートアクセスが可能なモバイル網を整備
- 効果**
  - ・外出先からでも社内の情報に安全にアクセスできるようになった
  - ・VDIを柔軟に拡張していける上、運用管理負荷が高まる心配もない

## 課題 厳格なセキュリティレベルを堅持しつつ 営業担当者の業務効率を高めたい

損保ジャパン日本興亜グループの一員として、生命保険事業を担う損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険。個人向けの医療保険やがん保険、死亡保険のほか、法人向けの定期保険などを幅広く提供している。その1つである個人向け医療保険「新・健康のお守り」は、2014年5月の発売開始から1年足らずで申込み数が30万件を突破。市場で高く支持されている。

時代や顧客ニーズに対応した商品を提供し、「お客さま評価日本一」の実現を目指す同社の前線を担っているのが営業担当者である。保険代理店への商品の説明や提案などが営業担当者の主な業務となるが、従来のワークスタイルには課題があった。

「例えば、外出先でPCを使って商品説明を行う場合は、あらかじめPCに資料をダウンロードしておく必要があります。急遽、契約者様の契約状況を確認しなければならない場合は、オフィスに電話して内勤のスタッフに調べてもらわねばなりません。自分宛てに届くメールもオフィスに戻ってからでないと確認できませんでした」と同社の天満 光生氏は話す。

理由は情報保護の徹底のためである。保険会社は、多くの個人情報を扱うため、社外から社内のシステムへのアクセスはできない仕組みとしていたのである。

そのため、営業担当者は、訪問先とオフィスの間を1日に何度も往復することもあったという。「セキュリティは堅持しつつ、効率的なワークスタイルを実現することを強く求められていました」（天満氏）。

## 対策

### FISC基準を満たすインフラで 高信頼なVDI環境を実現

課題を解決するため、同社が着目したのがVDI (Virtual Desktop Infrastructure) である。ネットワークを介して、いつでも、どこからでもPCを利用できるようにしつつ、データをサーバー側で一元管理し、情報漏洩リスクを抑止しようと考えたのだ。

このVDIを構築する上で、同社がこだわったのがシステムを支えるインフラである。各種サーバー、アプリケーションやデータを保管するストレージなどを自前で調達すると、コストが膨大になる上、運用管理の手間もかかる。

さらに、保険会社である同社は、FISC (金融情報システムセンター) の定める安全対策ガイドラインを遵守しなければならず、インフラには高度な要件が求められるからだ。

そこで、同社が採用したのがNTTコミュニケーションズ(以下、NTT Com)のデータセンターとクラウドサービス「Enterprise Cloud」である。

FISCのガイドラインをベースに、同社が具体化した各種要件をクリアしていたことが決め手となった。「例えば、私たちは、システムを委託するデータセンターを定期的に監査しなければなりません。中には、データセンターへの立ち入りを認めていない事業者もあるのですが、NTT Comは、そうした要求にも応えてくれました。もちろん、選定時も実際に設備や入退室セキュリティをチェック。信頼性、セキュリティなど、ガイドラインの要件を十分に満たすことを確認し、採用を決めました」と天満氏は話す。

また、VDI用サーバーを設置するハウジングスペースとストレージリソースなどを提供するEnterprise Cloudが同じデータセンター内でLAN接続されており、ハイブリッドに利用できる点も採用を後押しした。

ネットワークについては、すでにNTT Comの「Arcstar Universal One」で基幹網を構築しており、VDIを支えるデータセンターもここに収容されるが、新たに営業担当者のリモートアクセスを支えるため、「Arcstar Universal One モバイル」および「Bizモバイルコネク」を導入。閉域網を介したアクセスを実現しつつ、ワンタイム認証の仕組みを実装することで、外出先からでも安全に社内システムに接続できる環境を整えた。

「シンクライアントの構築は、別のITベンダーが行ったのですが、NTT Comは組織の垣根を越えて連携し、チーム力を発揮してくれました。おかげでVDIは、プロジェクトの立ち上げから6カ月という短期間で正式稼働を実現できました」と天満氏は満足感を示す。

## 効果

### 適用範囲の拡大にも すぐに対応可能

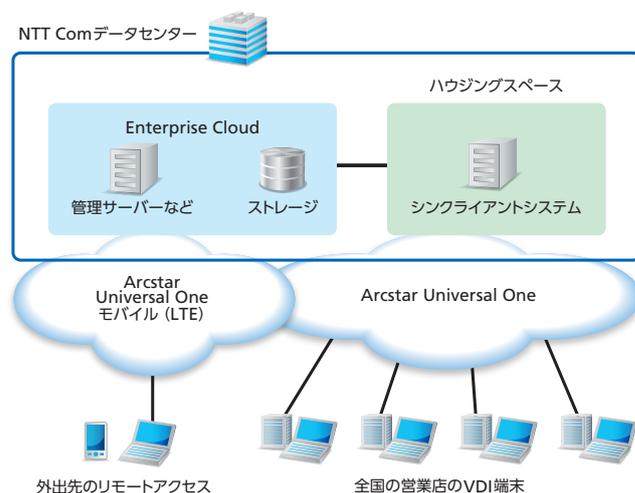
NTT Comのサービスが支えるVDIは、全国120の営業店に展開され、1700台の端末から利用されている。これにより、営業担当者のワークスタイルは大きく変わった。「いつでも必要な資料や契約状況などを確認でき、業務品質の向上につながっています」と天満氏はメリットを語る。

Enterprise CloudをVDIのインフラに採用したことで、今後、適用範囲が拡大しても、必要なサーバー、ストレージリソースをすぐに調達して、サービスを拡張していける上、ハードウェアの運用管理負荷が増大してしまう心配もない。

加えて、NTT Comは、別の側面からもセキュリティの強化に貢献している。具体的には、NTT Comのグループ会社であるNTTコムセキュリティが、同社のセキュリティ対策の状況を定期的に診断し、継続的な改善活動につなげているのである。「情報流出リスクの低いVDIを構築したとはいえ、油断はできません。セキュリティの専門集団であるNTTコムセキュリティのノウハウを活かし、継続的にリスクの低減に努めています」と(天満氏)。

今後は内勤スタッフのPCにもVDIを適用していく予定。安心・便利なシステムの拡充に向け、NTT Comはサービスとサポートの両面から、その取り組みを強力に支援していく考えだ。

図 VDIの構成イメージ



NTT Comのデータセンターと「Enterprise Cloud」を利用してVDIを構築。各営業店は「Arcstar Universal One」によるWANを介してシステムにつながる。外出中の営業担当者は「Arcstar Universal One モバイル」を介して、外出先からもセキュアにシステムが利用可能

お問い合わせ

NTTコミュニケーションズ株式会社

ホームページ [www.ntt.com/business](http://www.ntt.com/business)

●記載内容は2015年6月現在のものです。

●表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。

●記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。